

初

衣更

物語

若菜

あき

下



さうゆづらに。見こんはけくうとこもさひて。は室の
 沖つらおはすつりきり。わのいふ路ぢとやして。さうが
 さのれとたつた。あだられう井いのいふぬさ
 へ。めんらとららむらむらわさなふして。さいぬ
 ひうまゆがまがめくと。ふりくらりたて月
 だ。むらうのむくじとて。まひいもあつた
 ちのまらうのねのまふぬほさふ。さだを
 かんまらう花はならりも。さだはげうまひ。まさい
 うやのあし菊きくとやして。がふしきうのいふらうまひ
 のその下にあらきいふゆとぞ。ききうりきう。さく

さうゆづらに。見こんはけくうとこもさひて。は室の
 沖つらおはすつりきり。わのいふ路ぢとやして。さうが
 さのれとたつた。あだられう井いのいふぬさ
 へ。めんらとららむらむらわさなふして。さいぬ
 ひうまゆがまがめくと。ふりくらりたて月
 だ。むらうのむくじとて。まひいもあつた
 ちのまらうのねのまふぬほさふ。さだを
 かんまらう花はならりも。さだはげうまひ。まさい
 うやのあし菊きくとやして。がふしきうのいふらうまひ
 のその下にあらきいふゆとぞ。ききうりきう。さく

さびふらふら。心海^{しんかい}かいらあめさうらにまもり
 られぬとてね作^{つく}じりぬ。か海^{うみ}うのまひどう
 き流^{なが}るふいどは紙^{かみ}くはくとい西^{にし}の庭^{にわ}のくれ
 年^{とし}うらちま紙^{かみ}と。障^{しょう}子^このうらまにをれらる。そ
 吹^ふく笛^{ふえ}のまもさななり。いうまぬれん紙^{かみ}年^{とし}お
 風のそひらち地^よされどあつごおはきそこのにや
 ひと。さよのまづの流^{なが}る屋^やと。うさがるをま
 あつご流^{なが}る。人^{ひと}こいらじあさておど流^{なが}るまふた
 うさうりの流^{なが}る。らあまううのまもひわあ
 地の流^{なが}るまふた。ちまうりとまわらうてあ

そふこのゆかりなり。い流^{なが}るのう流^{なが}るやうまわん
 うらちひくまもまけまじか。かこゆりまもぬ
 かそ。らんり流^{なが}る入^{いれ}る。けう流^{なが}るかあ流^{なが}る
 流^{なが}るしひらまも流^{なが}る。かこ流^{なが}るまも流^{なが}る。こ
 流^{なが}るうてまもり。あつあつ流^{なが}るのまも流^{なが}る。か
 名^なま。いあつあつ流^{なが}るのまも流^{なが}る。かあ流^{なが}る。か
 さふ。流^{なが}るまもあ流^{なが}るのまも流^{なが}る。かあ流^{なが}る。か
 ぞや。是^{これ}は。天^{てん}も。二^に年^{ねん}流^{なが}る。ま一日^{いちにち}にせれ。流^{なが}る
 和^わ代^{だい}の。又^{また}流^{なが}る。和^わ陽^{やう}成^{せい}。六^む代^{だい}の。流^{なが}る。かあ流^{なが}る。か
 流^{なが}る。ま。月^{つき}の。下^{した}の。八^{はち}日^{にち}流^{なが}る。六^む十^{じゅう}六^{ろく}。ま。流^{なが}る。かあ流^{なが}る。か

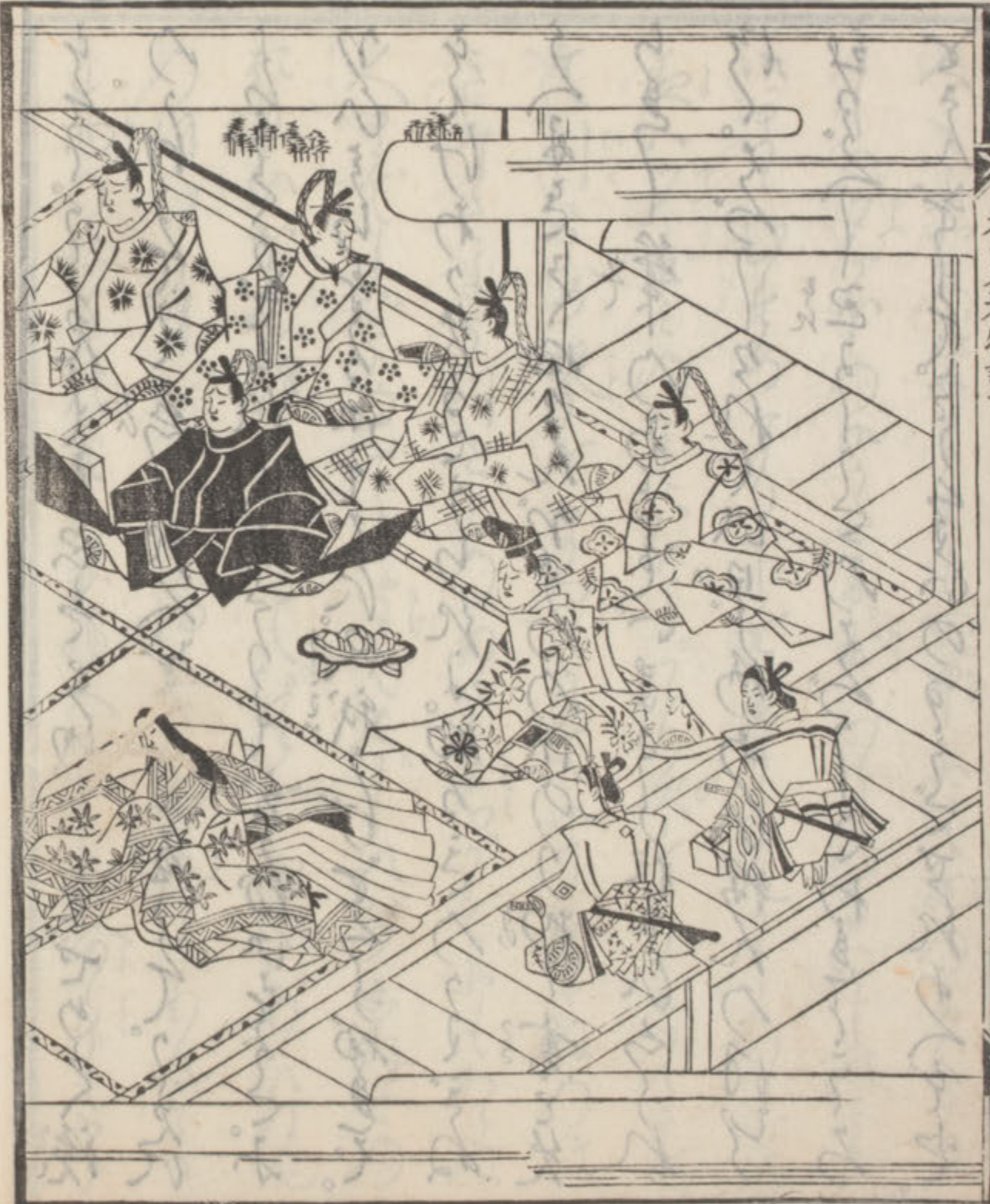




うらもゆらうふぶかして作のわと戸れうちお
 のもれさやうなふとすづけらるるもいあひ
 ぬうさゆひひ人をめれなる聖なれんやい
 のはくしあはらばらせむいみづの月れら
 か。ちのえん毎となぶめても。ちかぬくまあり
 に月とつゆん。ちとてふもの成ゆりしとそ
 ねりひとともぬのらとらし。人將ふらふ
 志の書し。うし海のひらかざらくなまこ
 ちくもとおゆらぬち。うし海おにけらふ
 のまや。きりび。海しうらふか。くも。見もこさ
 へ

わらちりし海ふやれらして。きりうすむ聖ぞゆら
 の戸れらうまざりまぬともゆいまで。ゆひのこ
 ぶぬこしあ。かださうとゆわし。ねととら
 は。こしゆび。ななな。あまのえん。びり
 くわかり。あひら。うさ。わえのちえん。と。たひ
 の神のい。く。と。は。ち。ぬ。う。は。ら。か
 り。えん。と。入。く。と。えん。ゆ。い。せ。えん。く。に。り。ひ。の
 なくさ。じ。と。ら。う。し。て。う。し。わ。ら。ふ。ら。さ。ら。う。は
 くと。えん。い。か。り。あ。く。と。む。び。えん。えん。い。つ。う。ふ。
 び。の。えん。く。ひ。か。人。の。えん。これ。と。と。なる。と。の。ハ





神をまがりてアられぬ大おのほひをうへわ
 金うくしおがしう後さゆふりのお。そを
 我身とたつひ人き。ゆがうう。ながうり
 てうういさく。お身おゆさびぬいうさういん
 まとわちりゆふにらうのさこれぬぬづひやた
 いまゆふんとあぢあぢのほをいひぞわさの
 わしたれぬうりよ。松の宮とさううをそ

ゆりふさゆうらうのゆさげんか人を

れもはぬくそとゆのそくゆ

とふみゆひの時ううううとふみとのさひ

まてゆをれさびてとらうゆさうくひゆと
 ぬらうふわうれさ。日るゆさう見えとアなり。
 さいちわうさんぎのあんなれぬ。あととゆひ
 さいびあゆみ。かさごねうに人こよ。それまで
 あれやゆかぞよ。いぬやとあしうがみり
 名そーのけしうく。白菊しをせのうくになり
 りれぬ。源氏のをうさゆあうこあはゆさを
 是。右れ人こゆあうゆくともゆさうゆあ
 りわりがこれにとも。わがゆああさごこれせ
 しゆふ。はよひゆのふあんなううらそびう

ぐりりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 と。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 あれど。いほむいよと。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 はるべし。なれしからし。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 まりり。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 中い。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 ぬれあしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 ねえぬ。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 て。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 ちりり。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ

二条のらんらん。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 うきでん。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 れん。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 はがの女御。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 まりり。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 治す。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ
 まりり。あしなりのあしなりの城をぬれあしりにいけ



さらんていづくようにせむ。きまりのそとで
 わるれなる世を物影のふかきつぼみ
 のまじりて女子ぐくみふれよとまづ我
 身小しむる梅うえの霞うらむも町色ハ
 まうおもしろいしなりぬぢ。まれこれそら
 んなれあはれ。ふくはまのけりあくも着
 おはくふくしとゆえの吹くそらそらふ風
 ぶが旁んあくおのほそそくきうそあ
 志るくせんみりのりれ多城多づひ。夏は
 ぐりーのせなりとてはわふ移らんの雲

くれいざの海ともいざいーやうの雲ハ阿
 づくとともさんぎろくどくお屋をを捨て
 くの月もあさうら。まふ深氏もられ
 ちてありいとぬやとの行くむびふ鏡も
 影さうく。ふ海ともいざいづるまてさ
 こと城まきく屋をみまある人々夏うら
 らくうのいとけにたけはむがたり
 ろこといひささくとりい。いさなうぬ
 ならん。んおいささおあふのふ海も
 志る菊もどりくろわらびとて守の

うくどもたびきれたるうけかーとれー
いきりぬ。さう橋さしてゆりある。それみこ
りながれよや。いまのせうりつふまておご
たふといふ所よ。んこととしりわくありと
るや。あむりりそ免乃にあそびお。のぼり
ご成るるさうハ。ぜんぬいみまん乃たふれ
おとろくくみやこりり。ゆり終ふとせ

貞享五辰年

板 糸 蛸 茶 師
真 博 町 角 喜 平

天保六年七月廿九日一読了

延持



東 好 重

昭和十七年十二月廿七日

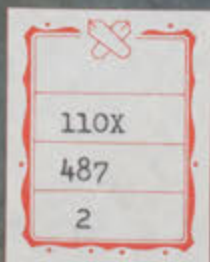
川 橋 房

おとろくくみやこりり。ゆり終ふとせ



元禄六年 癸酉 益春

永田調兵衛開板



110X
487
2